

# 「道」ということ

竹迫ミナミ

日本には武道、茶道、書道、芸道など古くから受け継がれて来た「道」の文化がある。本来はその技能を通しての礼儀作法や、精神修養・修練の場であったと思われる。

体罰問題が取り上げられている昨今、指導者の立場として考えさせられることが多い。その昔は私たち邦楽の世界も拷問に近い修行であったと聞く。昔はどの分野でも生活に密着していて樂しむためというより生きて行くための手段として、必然的に厳しくならざるを得なかったのかも知れない。



「箏・三絃による邦楽演奏会 竹迫ミナミと三和楽会」にて

私が「箏・三絃教室」を開いて40数年、教室では、演奏の技術と同様に、作法、立居振舞、この世界における秩序など伝えるべきことが沢山ある。時代の流れとともに邦楽界も様々に変化して来てはいるが「芸」、「道」を伝承することの厳しさ、難しさを日々痛感している。



同演奏会にて 左から3人目が筆者

最近ではカルチャースクールやサークル活動で、いろいろな分野を気楽に楽しく学べる機会が多くなり、「技術は教わるものではなく盗むものだ」などと言っていると時代錯誤も甚だしいと言うことになるらしい。

最近邦楽を志す若者は極端に少なくなっている。携わっている者としては危機感を募らせてはいるものの、自分自身進むべき道を見失ってしまったようで誠に心許ない。

今後「何々道」という日本の文化は廃れて行ってしまうのかも知れない。「古きを訪ねて新しきを知る」先達の築いた歴史の上に今が有ることも無視は出来ない。だれの言葉だったか「明日世界が滅亡しようとも、今日君はリンゴの木を植える」

この言葉のように今まで身につけたことをひたすら信じて、地道に伝え続けて行くことが、今の私に与えられた使命のような気がしている。

1956年 生田流箏曲入門。1966年秋田市にて箏教室を開設。  
1975年狭山市にて箏・三絃 邦楽教室を開設。以来小中学校  
や国内外各地で演奏活動を継続。狭山市三曲連盟所属

## 編集後記

地球温暖化もこの冬の寒さは何なのか。その中陨石さわぎまで、宇宙の神秘に驚かされた。芸術祭の期間中も寒かったが、御苦勞様でした。寒い冬の方が桜の開花は早いとか。「桜まつり」は満開の下でやりたいもの。文団連をはじめ各団体は総会をひかえ、人事等で頭の痛い季節でもあります。忙しい中、記事を寄せて下さった方々にお礼申し上げます。(高沢正夫)